

ホタル通信

No.166

2019.12.01

<小山のホタルと自然を守る会>

事務局 町田市小山町2545-6

Tel 042(797)5310 畠山

HP:<http://www.oyama-hotaru.com/>

とんぼ池の掻掘り（土砂さらい）を行いました。

(株)イムラ封筒の皆さんの協力で



20年来溜まりにたまった土砂で、トンボ池が埋まり、ホタルやカワニナにとって生息しにくくなってきました。今回はその土砂をさらう作業をイムラ封筒の皆さんと行いました。

← 作業前の状況

作業後のトンボ池

土砂をさらったため、池の水の貯水量が増加し、今年の2～3月に発生した急激な水枯れがなくなります。ホタルやカワニナその他の水中生物にとって快適な環境になったことと思います。



2019/11/17 09:33

作業の様子



泥をスコップですくいバケツに入れます。普段使わない筋肉運動で、翌日は腕と腰がパンパンに。



27人全員が一心不乱に泥と格闘。一気に深く掘り進みました。



バケツリレーで重い泥を捨てます。チームワークはバッチリでした。



作業を終え、ホッと全員でパチリ。お疲れ様でした。

(株)イムラ封筒大阪本社からメッセージが届きました

ホシザクラ群生地の自然保護活動実施について

11月16日、当社相模原工場の有志は「小山のホタルと自然を守る会」と協力して東京都町田市の片所谷戸（かたそやと）において自然保護活動を実施しました。

片所谷戸は相模原工場の北北東約1.2kmの丘陵地に位置し、周囲の開発により今では貴重になった自然の森と谷です。ここにはホタルやホシザクラ、ホトケドジョウ、フクロウ、モズなどの動植物が生息し、生物多様性を体感することができます。

特にホシザクラは、環境省のレッドデータブックの絶滅危惧IA類（CR）として登録されている貴重な桜で、片所谷戸は数少ない群生地となっています。

当日は相模原工場の従業員を中心に27名が、ホタルの幼虫が餌とするカワニナの生息する池底の土砂をすくい出して池を深くする作業に汗を流しました。約20年ぶりの作業とすることで「今後10年は心配ない」と喜んでいただきました。

小山のホタルと自然を守る会は、地元の有志が活動しているボランティア団体で、当社は賛助会員として2011年から毎年下草刈りに参加し、今回の活動で9回目です。

この取り組みは、SDGs（国連の持続可能な開発目標）に貢献する活動の一環として今後も継続していく計画です。

(株)イムラ封筒のHPから抜粋)

片所谷戸の現在



2016（平成26）年秋から谷戸の東側斜面の区画整理（宅地造成）事業が始まってからしばらく閉鎖されていた福生寺墓地側からの谷戸への歩道が開通しました。入口は階段とスロープになっており、歩道は、明るいアスファルト舗装です。以前のうっそうとした木々の木漏れ日の「山道」だった頃が懐かしく思われます。



左の写真はどこか撮ったのかわかりますか。宅地造成地内の「小山みたけ公園」からの谷戸の最下流部の風景です。来年の夏は、この場所からホタル観賞もできるかもしれません。片所谷戸は、住宅や市街地に囲まれた増々貴重な緑地としての存在意義が深まることでしょう。

区画整理（宅地造成）事業が今年いっぱいでの完了の予定だそうです。静かな谷戸に戻ります。

お知らせ

タマノホシザクラの開花は例年3月の中旬頃からです。お楽しみにしてください。

